

令和8年度 別府市高校生 サマースクールプログラム報告書

訪問先： 英国バース市
 ニュージーランド ロトルア市

期 間： 令和8年7月18日(土)～8月9日(日)



～Bath～



～Rotorua～

目 次

研修日程	・ ・ ・	1
------	-------	---

報告書（バース）

大分県立別府翔青高等学校	1 年 立山 開晶	・ ・ ・	2
大分県立大分上野丘高等学校	1 年 中原 僚佑	・ ・ ・	8

報告書（ロトルア）

大分県立大分舞鶴高等学校	3 年 塩月 優奈	・ ・ ・	14
大分県立別府鶴見丘高等学校	2 年 小川 春樹	・ ・ ・	21
大分県立別府鶴見丘高等学校	1 年 手島 梨紗	・ ・ ・	28
大分県立別府鶴見丘高等学校	1 年 朴 一 豪	・ ・ ・	33

別府市高校生サマースクールプログラム研修日程表(バス)

日 時	都 市	時間	ス ケ ジ ュ ー ル
1	7月18日 (土)	別府市 大分空港	16:00 別府北浜出発 (別府市職員同行) 17:00 大分空港着 18:55 大分空港発 20:40 羽田空港着
2	7月19日 (日)	羽田 ヒースロー ロンドン バス	0:15 羽田空港発 6:25 ヒースロー空港着 (バス・別府友好協会職員と合流) 8:15 パディントン駅へ移動 ロンドン市内視察 16:30 パディントン駅発バス市へ移動 18:00 ホストファミリー宅へ ホストファミリーと面会
3 5 21	サマースクール受講		
22	8月8日 (土)	バス ヒースロー	7:30 バス発ヒースロー空港へ 11:00 ヒースロー空港着 13:05 ヒースロー空港発
23	8月9日 (日)	羽田 大分 別府	10:55 羽田空港着 国内線ターミナルへ移動 15:00 羽田空港発 16:30 大分空港着 (別府市職員出迎え) 大分空港発 (エアライナー) 18:00 別府北浜着

別府市高校生サマースクールプログラム研修日程表(ロトルア)

日 時	都 市	時間	ス ケ ジ ュ ー ル
1	7月18日 (土)	別府市 福岡市 シンガポール	5:30 別府市役所出発 (別府市職員同行) 8:00 福岡空港着 10:00 福岡空港発 15:00 シンガポール空港着 (乗り継ぎ待機) 22:50 シンガポール空港発
2	7月19日 (土)	オークランド ロトルア	12:20 オークランド空港着 出発ゲートにて現地担当者で合流 空港発陸路ロトルアへ (約3時間) 16:00 ロトルア着 ホストファミリー宅へ ホストファミリーと面会
3 5 21	サマースクール受講		
22	8月8日 (土)	ロトルア オークランド シンガポール	8:30 ロトルア発陸路オークランドへ (約3時間) 12:00 オークランド空港着 14:10 オークランド空港発 21:00 シンガポール空港着
23	8月9日 (日)	シンガポール 福岡市 別府	1:20 シンガポール空港発 8:20 福岡空港着 (別府市職員出迎え) 9:42 福岡空港発 (高速バス) 11:45 別府北浜着

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府翔青高等学校 1 年 GC 科 立山 開晶

「言葉の壁」の向こうに見えたサンクチュアリ

― バースで少数派になった私が見つけた「安心できる関係」―

今回、バースで貴重な学びと経験を得ることができたのは、多くの方々の支えがあったからです。プログラムを支えてくださった文化国際課の皆様、事前研修や現地でご指導・サポートくださった皆様、温かく迎えてくださったコーディネーターの Kaoru さん、ホストファミリーや学校・地域の皆様に、心より感謝申し上げます。そして、一緒に学んだ仲間、家族にも感謝しています。今回の出会いと学びを、これからの自分の成長と地域での活動につなげていきたいと思っています。

1. 参加の目的・探究テーマ

「なぜ私は、サンクチュアリを探しにバースへ行ったのか」

別府は、多くの外国人が訪れ、暮らしている国際的な街です。私自身、小学校の頃から外国にルーツをもつ友だちがいて、言葉や文化の違いから孤独を感じたり、悩みを抱えたりしている人がいることを身近に感じてきました。現在、日本や別府市では外国から来る人が増えています。しかし、困ったときに気軽に相談できる場所や、地域の人と継続的につながる機会は、まだ十分ではないように感じています。

別府と同じように多くの外国人が訪れ、暮らしているイギリスのバース市には、移民や難民を温かく迎え入れる「City of Sanctuary」という活動が行われていることを知りました。今回のプログラムで、外国から来た人が安心して過ごせる場所とはどのようなものなのか、また、地域の中で人と人とのつながりをつくるために、どのような交流や支援が行われているのかを、自分の目で見て、聞いて、体験したいと考えました。



バースを一望

2. バースでの「壁」

バースは、ハチミツ色の「バース・ストーン」で造られた美しい街並みが広がる、世界遺産の古都です。そんな美しい街での生活への期待を胸に、プログラムがスタートしました。私はバースを訪れる前、言葉が通じなければ友達になることも、心の壁をなくすことも難しいのではないかと、心のどこかで思っていました。実際に生活が始まると、聞き取れないことだらけで、クラスでみんな



バースの街並み

が何に笑っているのか分からなくて、何度も言葉の壁を感じました。自分の伝えたいことがあるときも、頭の中で「主語は何にして、どの単語を使えばいいのか」と必死に英文を組み立てていました。しかし、考えても思うように伝わらず、誤解されることが怖くなりました。だんだん、「話したい」という気持ちがあっても、自分から話しかけることができなくなり、部屋から出ることもさえためらうことがありました。食事の時間になってもみんなの輪に入らず、一

人で過ごしたこともありました。これまで私は、言葉が通じない人の気持ちを分かっているつもりだったのかもしれませんが。しかし、自分自身が「伝えたいのに伝えられない」当事者になって初めて、その苦しさや孤独、不安を実感しました。どれだけ頑張っても伝わらないことがある。言葉が分からないことで、自分の気持ちまで閉じ込めてしまうことがある。バースで経験したこの「壁」は、私にとってとても苦しく、同時に大切な学びとなりました。

3. 「壁」の向こうが少しずつ見えてきた日々

(1) 学校生活

私が通った Languages United は、バースにある語学学校です。午前中は英語の授業、午後はさまざまなアクティビティや校外学習に参加しました。世界各国から集まった生徒と一緒に学び、英語だけでなく、それぞれの国の文化や考え方に触れることができました。最初の頃の私は、英語を話すことをためらい、学校に行くことさえ不安に感じる日がありました。しかし、先生たちは毎朝笑顔で「今日もよく来たね」と声をかけてくれ、授業中に分からないことがあっても、先生たちは丁寧に教えてくれました。プレゼンテーションで、自分の好きなことについて紹介する機会がありました。私はギターが好きなので演奏したいと思っていましたが、人前で演奏することが恥ずかしく、なかなか勇気が出ませんでした。少し弾いてみると、先生や友達が「あなたのギターをもっと聴いていたい」と言って一緒に歌ってくれた時、本当に嬉しかったです。先生たちは何かできるたびに「Lovely!」と言ってほめてくれました。できたことや挑戦したことを一つ一つ温かく認めてもらう中で、「間違っても大丈夫」「完璧に話せなくてもいい」と少しずつ思えるようになりました。そのような日々の小さな優しさの積み重ねが、私にとって大きな安心につながっていたのだと思います。



大好きな先生と

(2) アクティビティを通して

午後のアクティビティでは、ローラースケート、ボーリング、カラオケ、映画鑑賞など、さまざまな活動を体験しました。また、ローマンバスやブリストルを訪れたり、ストーンヘンジを見学したり、毎週金曜日にはディスコや仮装パーティーもありました。特に心に残っているのは、ボーリングです。クラスメイトが「行けー、かいあ!」と日本語を私のために使ってくれ応援してくれました。言葉の違いを越えてみんなとつながれたような気がしました。アクティビティの中では、言葉が十分に話せなくても、一緒に体を動かしたり、歌ったり、作品を作ったりすることができました。特にアートを通じた活動では、「言葉が分からない」ということをあまり意識せずに過ごすことができました。訪れたブリストルは、バンクシーでも知られる街で、街のあちこちにさまざまなストリートアートがありました。その中で私が作ったスプレーアートは、「少女と風船」です。風船がただ逃げていくのではなく、少女が未来へ向かって必死に手を伸ばしているようにも見えました。その姿が、慣れない環境の中で、自分なりに前に進もうとしていた自分と重なりました。



描いた絵

(3) 友達との出会い

同じクラスで隣の席になった中国から来た女の子との出会いは、特別な出来事でした。その子も私と同じように、英語で話すことに苦労しているように見えました。ある時、「さっきの先生の話、分かった？」と聞くと、「全然分からなかった」と答えてくれました。その会話をきっかけに、私たちは少しずつ仲良くなりました。彼女とは、文法を気にしながら完璧な英文を作ろうとしなくても、知っている単語を並べたり、ジェスチャーを使ったりしながら自然に会話することができました。毎日一緒に昼ご飯を食べ、お互いに日本語や中国語を教え合うこともありました。私たちは二人とも写真を撮ることが好きでした。写真を撮ったり、見せ合ったりすることを通して、少しずつ会話が増え、どんどん親しくなっていました。一緒に笑ったり、同じものを見て楽しんだりする中で、私が感じていた「壁」が少しずつなくなっていくように感じました。



親友と学食で

(4) ホームステイでの生活

私が滞在したホームステイ先は、お父さん、お母さん、15歳と21歳の息子さんがいる家庭でした。毎日の食事はとてもおいしく、食卓では毎晩食材の名前をクイズのように教えてくれる時間が好きでした。教科書には載っていない生活の中のちょっとした言い回しを学べました。ホストファミリーはとても優しく、必要以上に干渉することはなく、私が一人で過ごす時間も大切にしてくれました。週末には一緒にアイスクリームを食べに行ったり、お土産



好きな夕飯のメニュー



ホストファミリーと

産を買うためにお店を回ったりしました。日本から持って行った書道も楽しんでくれて嬉しかったです。家族と一緒にゆっくり過ごす普通の時間がとても心地よく感じました。一人部屋も快適で、自分のペースで過ごすことができました。生活の中では、洗濯が週に一度だったため着替えが足りなくなるなど、小さな困りごともありました。しかし、そのようなことも含めて、日本とは違う生活を実際に体験できたことは、とても貴重な経験になりました。

4. 「壁」の向こうに見えたもの — 私が考える「サンクチュアリ」

バスでの生活に少しずつ慣れてくると、言葉が十分に通じなくても、ジェスチャーや表情、知っている単語を使いながら、自分の気持ちを伝えられることに気づきました。完璧な英語でなくても、「伝えたい」という気持ちがあればコミュニケーションはできる。そう思えるようになってから、英語を話すことへの緊張も少しずつなくなり、間違いを恐れずに話しかけられるようになりました。友達と一緒に笑ったり、遊んだりするうちに、次第に日本にいたときと同じような安心感を感じられるようになりました。

今回の経験を通して、言葉は人と人をつなぐ大切な手段ですが、それだけがコミュニケーションではないことを実感しました。笑顔や表情、一緒に何かをする時間、そして「知りたい」「分きたい」と思う気持ちも、人と人との距離を縮める大切な力です。

私は、「サンクチュアリ」とは、外国から来た人が、言葉や文化の違いを気にせず、安心して自分らしく過ごせる環境のことではないかと考えるようになりました。そして、そこに最も大切なのは、「自分を受け入れてくれる人がいること」だと思います。

今回、私はバースで「外国から来た人」として生活し、自分自身が少数派になる経験をしました。日本で外国から来た人が日本語や文化の違いに戸惑っている姿を見ても、私はそれを「自分とは違う誰かの経験」として見ていたのかもしれませんが、しかし、バースでは私自身がその立場になりました。伝えたいことが伝わらない。みんなが笑っている理由が分からない。間違いや誤解が怖くて、自分から話しかけられない。そんな経験を通して、言葉や文化の違いの中で生活することが、想像以上に不安や孤独を感じるものだと実感しました。

一方で、私を安心させてくれたのは「完璧な英語」ではありませんでした。毎朝笑顔で声をかけてくれた先生、困っているときに一緒にご飯を食べてくれた人、英語がうまく話せなくても一緒に笑ってくれた友達、私のギターを聴きたいと言ってくれた人、そして静かに見守ってくれたホストファミリー。「ここにいてもいい」と思わせてくれる人がいたからこそ、私は少しずつ「壁」の向こうへ踏み出すことができたのだと思います。

5. 私がこれからできること

(1) 「サンクチュアリ」は、場所ではなく関係なのかもしれない

私は今回のプログラムに参加する前、「外国から来た人にとってのサンクチュアリとは何か」という問いを持ってバースへ行きました。最初は、外国から来た人が安心して過ごせる「場所」や「施設」のようなものを想像していました。しかし、実際にバースで生活する中で、その考えは少しずつ変わっていきました。私が安心できたのは、誰かが笑顔で「今日も来たね」と声をかけてくれたときでした。自分らしくいられたのは、英語を間違えても否定されず、「大丈夫」と受け止めてもらえたときでした。そして、誰かとつながっていると感じたのは、一緒にご飯を食べたり、歌ったり、遊んだり、同じ時間を過ごしたときでした。この経験を通して、私は「サンクチュアリ」は建物や制度だけではなく、安心して人とつながることができる「関係」なのではないかと思うようになりました。最初、私はサンクチュアリを「外国から来た人が安心できる場所」だと考えていました。しかし、今は少し違います。違いがあっても、自分を否定されず、安心して人とつながることができる。そんな関係こそが、サンクチュアリなのではないかと思います。そして、それは外国から来た人だけに必要なものではありません。日本人でも、学校や家庭、地域の中で孤独を感じたり、「自分らしくいていいのだろうか」と悩んだりする人がいます。だからこそ、誰もが「ここにいていい」と思える場所や人とのつながりが、これからの社会には必要なのではないかと思います。

(2) 別府の未来に向けて

自分自身が外国人という立場で生活したことで、これまでとは違う視点から物事を見ることができました。別府には、さまざまな国や地域から多くの人が訪れ、生活しています。これからさらに国際化が進む中で、外国から来た人のために日本語を学ぶ場所や生活を支援する制度を整えることは、もちろん大切です。しかし私は今回の経験を通して、言葉の壁をなくすことだけが「壁」を越える方法ではないのではないかと感じました。たとえ言葉が十分に通じなくても、笑顔で迎えてくれる人がいること。困っているときに声をかけてくれる人がいること。一緒に何かを楽しむこと。違いを理由に遠ざけるのではなく、「あなたのことを知りたい」と思ってくれる人がいること。そのような日常の中で生まれるつながりが、人の心にある壁を少しずつ低くしていくのではないかと思います。

私がこれからの別府にあったらいいと思うのは、外国から来た人のための特別な場所ではなく、日本人も外国から来た人も、子どもも大人も、自然に出会い、一緒に何かをしたり、話したり、笑ったりできる機会です。言葉が上手に話せるかどうかに関係なく、「一緒にいて楽しい」と思える経験が増えることで、人と人との間にある壁は少しずつなくなっていくのではないかと思います。

（３）私の未来へ

私の将来の夢は、日本人にも外国から来た人にも寄り添うことができるカウンセラーになることです。今回、バースで「当事者」になり、「少数派」になる経験をしたことは、この夢をかなえるために絶対に必要な経験だったと思います。これまで私は、「外国から来た人に寄り添いたい」と考えていました。しかし、実際に自分が言葉の壁の中で生活してみて、「寄り添う」ということは、簡単に「分かってあげる」ことではないと感じました。相手が何に困っているのか、何が不安なのかを想像し、分からなくても分かろうとすること。そして、あなたは一人ではない」「ここにいていい」と伝え続けることが大切なのだと思います。

今回のバースでの経験を、私はこれからずっと忘れないと思います。言葉が通じず、一人で不安だった日。誰かの優しさに救われた日。英語が完璧ではなくても、友達と笑い合えた日。そして、自分の中にあった「壁」が少しずつ低くなっていった日。これらすべての経験を、これからの自分の成長につなげていきたいです。そしていつか、私自身が誰かにとっての「サンクチュアリ」のような存在になりたいと思います。言葉や文化、考え方の違いがあっても、安心して自分らしくいられる。「ここにいていい」と思える。そんな関係を、一人ひとりとの出会いの中でつくっていきける人になることが、今の私の目標です。



好きだった景色

What I Found Beyond the “Language Barrier” in Bath

Kaia Tateyama, Beppu Shosei High School

I joined the Beppu City High School Summer Program in Bath, UK. Before going to Bath, I had one question: What is a “sanctuary” for people from other countries? I wanted to learn how people in Bath welcome people from different backgrounds and how they build connections with each other.

When I arrived in Bath, I found that speaking English was much harder than I expected. I could not understand what people were saying, and sometimes I could not join conversations. I was afraid of making mistakes, and I felt lonely. For the first time, I understood how difficult it is to be in a place where I cannot say what I want to say.

At Languages United, my teachers always smiled and encouraged me. When I played the guitar, my friends listened to me and sang with me. Their kindness helped me think, “It’s okay to make mistakes.” I also made a good friend from China. We both had trouble speaking English, so we used simple words, gestures, photos, and even taught each other Japanese and Chinese. We became friends without using perfect English. My host family also made me feel comfortable. We ate dinner together, talked, and enjoyed ordinary time together. I felt that these small moments were very important.

Through my experience in Bath, my idea of a “sanctuary” changed. I used to think it was a special place where people could feel safe. Now I think a sanctuary can also be a relationship with people who accept you as you are. A smile, a kind word, eating together, playing together, and laughing together can help break down the walls between people.

This experience also changed the way I see Beppu. I think it is important to have more chances for Japanese people and people from other countries to meet, talk, play, and enjoy things together. We do not need perfect language to connect with each other.

In the future, I want to become a counselor who can support both Japanese people and people from other countries. I hope that I can become someone who makes others feel, “I am not alone. I belong here.” I want to be a “sanctuary” for someone someday.

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立大分上野丘高等学校 1年 中原 僚佑

BATH × BEPPU

— バースで暮らして、二つの街の魅力を知った3週間 —

私は今回、別府市の短期留学でイギリスのバースに3週間滞在しました。出発前は、3週間も海外で生活することに不安がありました。しかし、実際にバースで生活してみると、最初に感じていた不安はなくなり、最後には「またここに帰ってきたい」と思うようになりました。3週間という短い期間でしたが、バースは私にとって第二の家のような場所になりました。



3週間過ごした部屋



学校から家に帰るまでの道

バースと別府は、どちらも温泉で知られている街です。今回の留学では、バースで生活しながら別府との違いを考えることで、今まで当たり前だと思っていた別府の魅力に改めて気づくことができました。バースでは温泉が歴史や文化と強く結びついていて、石造りの建物が並ぶ美しい街並みが大切に守られていました。街を便利にすることだけを考えるのではなく、今ある景観を残すことも大切にされていることが印象に残りました。また、検討されている鉄道やスタジアムの建設についても、街の景観とのバランスが考えられていました。

一方、別府では温泉は観光だけのものではなく、生活の一部になっています。街のいたるところに温泉があり、海と山の間に広がる街から湯けむりが立ち上がる景色は、別府で暮らしている私には当たり前でした。しかし、バースで生活したことで、それが決して当たり前ではなく、別府にしかない大きな魅力なのだと感じました。バースの街が歴史や景観を大切にしている姿を見て、別府も温泉や湯けむり、海や山など、別府らしい景色をこれからも大切にしていこう必要があると思いました。



Roman Baths



バースの街並み

また、海外で生活したことで、日本の良さにも気づきました。特に食事は強く印象に残っています。イギリスではパンやパスタなど小麦を使った食事が多く、朝食はパン、昼食はサンドイッチやチップス、果物などが中心でした。同じような食事が続くと、早い段階で日本の食事が食べたくなりました。ですが、ホストファミリーが作ってくれたハンバーガーなどの料理はとても美味しく、特に印象に残っています。日本に帰ってきてから、改めて日本の食事は種類が多く、味を楽しむことが良さの一つだと感じました。



ホストファミリーと食べたハンバーガー

生活面でも、日本とイギリスの違いをたくさん感じました。イギリスの水は硬水で、シャワーの水の感覚や味が日本とは違いました。普段日本で生活していると気づかない水質の違いを実際に体験し、日本の水のありがたさを実感しました。他にも、窓を開けたままにしている家が多かったり、日常生活にも日本との違いがありました。また、イギリスではキャッシュレス化がかなり進んでいて、現金を使う機会がほとんどありませんでした。

教育についても興味深い違いがありました。イギリスでは高校段階から専門的な分野を学び、その成績が大学進学につながる仕組みがあり、日本の大学受験に向けた勉強とは違う部分があります。また、街中でチャリティー活動が身近に行われていることも印象に残りました。日本とイギリスにはそれぞれ違った考え方や良さがあり、実際に生活したことで、どちらが良いということではなく、それぞれの文化を知ることが大切だと感じました。

今回の留学で特に大きな学びになったのは、さまざまな文化や宗教を持つ人たちと一緒に生活したこと。学校にはヨーロッパやアフリカなど、いろいろな国から来た生徒がいました。私のハウスメイトはアルジェリア出身のムスリムで、ハラールの食事しか食べることができませんでした。今まで自分が触れたことのなかった文化を、実際に同じ生活の中で知ることができたのは、とても貴重な経験でした。

また、私はスポーツが好きなので、イギリスのスポーツ文化にも興味を持ちました。サッカーの試合を見に行ったときには多くの人が集まり、会場の盛り上がりには驚きました。また、スポーツを通して友達を作ることもしました。英語が完璧に話せなくても、スポーツという共通のものがあることで自然に会話が生まれました。バースではラグビーも盛んで、スポーツが街の中に溶け込んでいました。別府にも海や山があり、スポーツをする環境があります。スポーツには、人を集めるだけでなく、人と人をつなぐ力があると思います。将来、別府でもスポーツを通して地元の人と海外の人が交流できる機会が増えれば、別府の新しい魅力になるのではないかと思います。



サッカー観戦

3週間の留学を終えて、私の中で一番大きく変わったのは、「知らない場所に行ってみる」への考え方です。行く前は不安でしたが、実際に行ってみると、家族ができ、友達ができ、自分とは違う文化を持つ人たちと一緒に生活することができました。最後には、バースを第二の家だと思えるようになりました。今回の経験から、最初から不可能だと決めつけるのではなく、まず挑戦してみることが大切だと学びました。

また、海外に行ったことで、自分が生まれ育った別府を外から見ることができました。温泉、湯けむり、海、山、食、そして世界中から人が集まる環境。これまで当たり前だと思っていたものが、実は別府にしかない魅力だと分かりました。同時に、バースのように歴史や景観を守ること、スポーツを通して人をつなぐこと、地域の食文化を発信することなど、別府がこれからさらに世界に魅力を伝えていくためのヒントも見つけることができました。

今回の留学は、英語を学ぶためだけの3週間ではありませんでした。世界を知ること、自分の国のこと、そして自分の地元である別府のことを、今までとは違う視点から見ることができました。私はこれから、今回学んだことを自分の人生の指針として、知らないことを知ろうとすること、違う文化を理解しようとする、自分の住んでいる場所の魅力を見つけることを大切にしていきたいです。

そして、いつかもう一度バースに戻りたいです。3週間生活して第二の家だと思えた場所を、今度は違う視点で見たいと思います。そして、自分が大好きな別府の魅力を、いつかいろんな人に伝えられるようになりたいです。

最後に、今回の留学を支えてくださったホストファミリー、友達、現地でサポートしてくださった薫さん、別府市文化国際課の皆さん、そしてこの研修に関わってくださったすべての方々に感謝します。短期留学に行く機会をいただき、本当にありがとうございました。



高台から見たバースの街並み

Ryo Nakahara

1st year student, Oita Uenogaoka High School

What I Learned from My Three Weeks in Bath

I spent three weeks in Bath, England, through a short-term study program from Beppu City. Before I left Japan, I was worried about living abroad for three weeks, speaking English, living with a host family, and adapting to a different culture. However, I gradually became comfortable and made many friends. By the end of the program, Bath felt like my second home, and I wanted to go back there again.

Bath and Beppu are both famous for their hot springs, but they are very different. In Beppu, hot springs are part of everyday life. In Bath, hot springs are closely connected to the history and culture of the city. I was also impressed by the beautiful historical buildings and the importance of protecting the city's landscape. This made me think about Beppu's scenery, including the sea, mountains, and steam rising from hot springs. I realized that things which are ordinary to me can be special to people from other countries.

Living in England also helped me notice the good things about Japan. British food was different from Japanese food, and I sometimes missed Japanese meals because I felt that there was less variety. After returning to Japan, I realized again how rich Japanese food culture is.

There were also many differences in daily life. The water in England was hard water, and the shower felt and tasted different from the water in Japan. Cashless payments were very common, and I never used cash. I also learned about differences in education and charity activities. These experiences taught me that different countries have different cultures and strengths.

One of the most important experiences was living with people from different cultural and religious backgrounds. My housemate was from Algeria and was Muslim. He only ate halal food and prayed several times a day. By living with him, I learned about his culture and religion that I had not experienced before.

Sports were another important part of my experience. I watched a football match and saw many people enjoying sports together. I also made friends through football. Even

when our English was not perfect, sports gave us a common interest. I learned that sports can connect people without words.

This experience also changed the way I see Beppu. Beppu has hot springs, beautiful nature, food culture, and many international students from around the world. Before this trip, I thought these things were normal. After living in Bath, I realized that these are very special.

Most importantly, I learned that trying something new can change my world. Before the trip, I was afraid of spending three weeks abroad, but in the end, I made friends, experienced different cultures, and found a second home.

Seeing the world helped me see my hometown in a new way. I want to visit Bath again someday, and I also want to help people around the world discover the wonderful things about Beppu.

I am very grateful to my host family, my friends, Kaoru san, who supported me in Bath, Beppu City International Affairs Division, and everyone who supported me during this experience.



The view of Bath seen from a hill

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立大分舞鶴高等学校 3年 塩月優奈

私は別府市のサマープログラムに参加し、ニュージーランドのロトルアで3週間の研修を行った。

学校生活

私が通った語学学校には国や地域、そして年齢も異なるさまざまな人々が集まっていた。私のクラスにはまだ12歳の子どもから、すでに母国で働いている社会人まで在籍しており、台湾やサウジアラビア、タヒチなど様々な国や地域から来た生徒たちと学ぶことができた。

最初は、言語も文化も異なる人たちとどのように関わればよいのかわからなかったが初日から積極的にクラスメイトに声をかけてもらい、早く生徒たちと打ち解けることができた。授業やアクティビティだけでなく、放課後や休日にも一緒に出かけたり、たくさんコミュニケーションを交わした。その中で、年齢や国籍、文化の違いを越えて友情を築くことができた。友人と過ごした時間はとても楽しく、留学生活の中でも特に印象に残っている。

また、お互いの国の文化や言葉を教え合う機会も多くあった。日本について質問されることも多く、自分が当たり前だと思っていた日本の文化や習慣について改めて考えるきっかけになった。日本に興味を持ってくれている人が想像以上に多いことにも驚き、日本の文化には、自分がこれまで意識していなかった魅力や価値が数多くあるのだと気づいた。異なる文化を知ることは、単に外国について理解を深めるだけではなく、自国を客観的に見つめ直すことにもつながるのだと実感した。

そして、学校生活を通して私が最も興味を持ったのが、国によって英語教育のあり方に違いがあることだった。授業の中で、国によって「読む・書く」ことを得意とする人もいれば、「話す・聞く」ことを得意とする人もいるなど、それぞれに特徴があることに気づいた。そして、それぞれの得意分野には、その国の教育の特徴や学習方法が深く関係しているように感じた。

特に、日本人は他国の生徒と比べて読み書きを得意とする一方で、英語を実際に使って話したり、聞き取ったりすることに苦手意識を持つ人が多いようだった。実際に様々な国の人と英語で交流したからこそ、日本の英語教育を外側から見つめることができ、国によって違いが生まれる理由やそれぞれの国では、英語のどのような能力を重視して教育しているか興味を持つようになった。



文化・歴史

マオリの文化や歴史にも実際に触れる機会が多くあった。特に印象に残っているのは、Western Heights High School を訪れた際に、現地の生徒たちからハカやマオリ独自の歌を教えてもらい、実際に一緒に体験したことである。また、「Poi」と呼ばれる伝統的な道具を使った体験ではマオリ文化の力強さや独自性を肌で感じる事ができた。

実際にマオリの人々と交流する中では、彼らの話す英語に特徴があり、最初は聞き取ることに難しさを感じた。しかし、それも含めて異なる言語や文化の中で生活することの面白さを実感できた。歴史については、Buried Village of Te Wairoa を訪れたことが特に印象に残っている。そこでは最先端のVR技術を用いて1886年6月10日に起きたタラウェラ山の大噴火によって火山灰に埋もれた村の当時の様子を、3D映像によって体験した。単に歴史について説明を読むのではなく、当時の村の様子や大噴火の瞬間を仮想空間の中で体感することで、過去の出来事をより身近なものとして捉えることができた。

また、Te Puia では、マオリの伝統や芸術に込められた意味について詳しく学んだ。マオリの文化では、色一つにも意味が込められており、赤は血液、つまり生命を、白は光を黒は闇を表している。それぞれの色も、かつてはサメの肝臓や石灰、泥温泉など、身近な自然のものを利用して作られていたという。さらに、マオリの像が手にしている「Marae」という武器についても知った。翡翠から作られたものは深い緑色をしており、クジラの骨を用いたものもあるなど、自然の素材を生かした独自の文化が形成されていたことが分かった。

さらに、マオリの伝統的なタトゥーである「Tā moko」は、単なる装飾ではなく、その人の血統や地位、これまでの歩みなどを表す重要な文化であることを学んだ。集会所の建築にもマオリ独自の思想が表れており、左右対称の構造は、人間の祖先の身体を表現すると同時に、「生と死」「神聖と日常」といった相反するものの調和やバランスを象徴しているという。実際にマオリの文化に触れ、現地に行ったからこそ、そこに込められたロトルアの人々の価値観や歴史そのものを肌で実感することができた。



温泉・地熱

ロトルアを訪れて、街のいたるところで地熱の力を感じることができた。

Te Puiaでは、ロトルアの地熱活動についてさらに深く学んだ。特に迫力があつたのが、ニュージーランド最大級の間欠泉であるポフツ・ガイザーである。地下深くで温められた水が地中の圧力によって地表へ噴き上げられることで、熱水が大きな勢いで空高く噴出する。実際に間近で見学すると、立ち上る湯気や大地から伝わる熱を感じることができ、地熱が単なる「温泉」ではなく、地球内部のエネルギーによって生み出されている現象であつた。また、園内にある泥池では、高温の泥が絶えず湧き上がっており、ロトルアの大地が現在も活動を続けているのがわかった。

Kuirau Parkでは足湯を体験したほか、園内の遊歩道を歩きながら温泉の源泉や泥池を観察した。いたるところから湯気が立ち上り、硫黄の独特な香りが漂う景色は、別府の温泉地とは違った匂いや雰囲気だった。

私はロトルアと日本の別府の地熱の共通点について気になり、調べた。どちらも火山活動によって豊かな温泉や地熱資源が生み出されている地域である。しかし、その地熱の現れ方や人々との関わり方には違いがある。ロトルアでは、間欠泉や泥池など、地熱そのもののダイナミックな姿を目にすることができる。一方、別府では数多くの源泉が人々の暮らしの中に溶け込み、温泉や地獄蒸しなど、地熱の恵みを日常的に利用している。この違いから、同じ火山地帯であっても、地形や地下水などの自然条件、そして地域の歴史や文化によって、人々と自然との関わり方は大きく異なるのだと感じた。

また、ロトルアでは地熱が観光だけでなく、エネルギー資源としても活用されていることを知った。地球内部の熱という、一見すると人間には制御できないほど大きな自然の力を、エネルギーとして利用していることに驚いた。自然の力を理解し、生活に生かそうとする人々の知恵についても学ぶことができた。



ホストファミリー

私は3週間の中で1番思い出に残っているのはホストファミリーと過ごした時間だ。

初めてホストファミリーと対面したとき、彼らは私を温かく迎え入れてくれた。しかし、当時の私はホストファミリーの話す英語を十分に聞き取ることができず、自分の伝えたいことさえ思うように表現できなかった。言葉の壁を目の前に突きつけられ、悔しさと同時に、この先三週間過ぎて

いけるのだろうかという不安が募っていった。

そんな私の不安を取り除いてくれたのがホストファミリーの存在だった。私が理解できるまで何度も言葉を変えながら丁寧に説明してくれたり、日常生活の中で困ることがないように細やかに気を配ってくれたり、常に寄り添ってくれた。また、さまざまな場所へ連れて行ってただけでなく、ニュージーランドの文化や暮らしに触れることのできる貴重な経験も数多く与えてくれた。そして私を家族の一員として受け入れ、たくさんの愛情を注いでくれた。三週間という時間はあっという間だったが、二人からもらった優しさや温かさは、これからも私の心に残り続ける。

特別な観光やイベントだけが思い出に残っているわけではない。毎日一緒にパズルをしたり、料理をしたり、テレビを見たり、何気ない会話を交わしたりした時間こそ、私にとってかけがえのない思い出となった。三週間という限られた期間でありながら、気がつけば本当の家族のように感じるほど、大切な存在になっていた。

そして、二人は私にとってただのホストファミリーではない。私が心から尊敬し、憧れている二人だ。いつも相手を思いやり、温かく接する二人の姿を見て、私も二人のような人になりたいと思った。今回の留学を通して出会えた二人は、これからも私にとって本当に大切な存在であり続ける。

日本に帰ってきてからも、二人と過ごした時間を思い出することが多くある。私はいつか必ずニュージーランドを訪れ、二人にもう一度会いたい。そして、その時には改めて感謝の気持ちを伝えたい。この出会いを大切に、二人とのつながりをこれからも大切にしていきたい。



自己成長

私は今回、正直、はっきりとした目的を持って留学を決めたわけではなかった。何か自分が変わるきっかけになればいいなという思いがあり、その気持ちが留学を決めるきっかけだった。

私の高校のクラスには、アメリカやフィジーから来た留学生もいる。また、私は小さい頃から洋楽が好きで、もともと英語には興味があった。しかし、実際に英語を使うことには自信がなかった。クラスでも、自分から英語で留学生やALTの先生に話しかけることはできず、英語の授業でも、英語を話す場面では受け身になってしまっていた。だからこそ、今回の留学を機に、少しでも自分の英語に自信を持てるようになりたいと思った。そして、間違えることを恐れず自分から積極的にとにかく英語を使うことを決めた。最初は、英語を話すだけでもとても緊張した。たくさん間違えたし、自分の言いたいことが相手にうまく伝わらないこともあった。決して、楽しいことや良いことばかりではなかった。それでも、周りの人たちに助けをもらいながら、私自身もめげずに英語を使い続けた。その結果、日に日に英語が聞き取りやすくなり、自分の言いたいことを英語で思いつく

までの時間も少しずつ短くなっていった。振り返ってみると一日一日の小さな挑戦を積み重ねることによって少しずつ、一步一步成長していったことを実感した。

そして、今回の留学で変わったのは英語力だけではない。

私はこれまで、学校の授業で自分から手を挙げて発言することはほとんどなかった。間違えたらどうしよう、周りからどう思われるだろう、と人の目を気にしてしまい、やりたいことがあっても一歩踏み出せなかった。しかし、私が通った学校では、多くの人が授業中に積極的に発言し、自分の考えをどんどん表現していた。また、学校生活でも周りの目を気にするのではなく、自分のやりたいことを自分らしく楽しんでいる人が多かった。その姿が私にはとてもかっこよく見えた。そして、そんな環境にいたことが心地よかった。私もその姿に刺激を受け、負けじとたくさん発言するようになった。やってみたいと思ったことにはできるだけ挑戦し、どう思われるかよりも自分がどうしたいかを大切にしてお過ごした。その結果、留学中はやらなかったことを後悔するよりも、やってみてよかったと思える経験をたくさんすることができた。日本に帰ってきた今も失敗や間違いを恐れるのではなく、「やってみたい」と思った気持ちを大切にしてお過ごしている。

また、この留学をきっかけに、これまで以上に国際社会に興味を持つようになった。日本とは異なる環境で生活したことで、世界には自分の知らない考え方や文化がたくさんあることを実感し、もっと広い視野を持って世界を見てみたいと思うようになった。

人生で、こんなにも素晴らしい経験ができるとは思っていなかった。この3週間をかけがえのない時間にしてくれたのは、間違いなく周りの人たちの存在だった。温かく迎えてくれたホストファミリー、いつも支えてくださった学校の先生方、さまざまな場面でサポートしてくださった由美子さん、一緒に過ごした友人たち、そして留学を決めるときに背中を押し、最後まで支えてくれた家族。関わってくださったすべての方に、心から感謝したい。帰国が近づくにつれて、さまざまな人との別れがとても辛く感じられ、たくさん涙を流した。この留学のプログラムで出会った人たちが私にとって大切な存在になっていた。

3週間という短い期間だったが3週間とは思えないほど多くの経験をし、たくさんの思い出を作ることができた。そして、この留学を通して人とのつながりの大切さや、自分の知らない世界に飛び込んでみることの価値にも気づくことができた。言語や文化が違っていても、相手を知ろうとする気持ちがあれば、人と人との距離を縮めることができる。そのことを実感できたのが今回の留学で得た1番大きな学びだった。

もし、留学に行くか迷っている人や、少しでも興味を持っている人がいるなら、私はぜひ一歩踏み出してほしいと思う。出発前は、不安や緊張でいっぱいだった。しかし、実際に知らない世界に飛び込んでみたからこそ出会えた人や、見ることができた景色、感じることもできた思いがたくさんあった。

今回の留学は、私にとって単なる海外で過ごした3週間ではなく、自分の世界を広げ、これからの人生について考えるきっかけとなった大切な経験である。この3週間で得た学びや出会いを一時的な思い出で終わらせず、これからの学びや人との関わり、そしてこれから歩いていく人生の中で生かしていきたい。

I spent three weeks in Rotorua, New Zealand. During my stay, I experienced many things that I could not experience in Japan, and learned a lot about different cultures and ways of thinking.

My school life

At my language school, there were students from many different countries, such as Taiwan, Saudi Arabia, and Tahiti. They were also different ages, from 12-year-old students to working adults. I made friends with people from different countries, and we often talked about our countries, languages, and cultures. Through these conversations, I realized that learning about other cultures can also help us look at Japan from a different point of view.

Māori culture

I also learned a lot about Māori culture and history. At Western Heights High School, I experienced the Haka, traditional Māori songs, and poi. I also visited Te Puia, where I learned about Māori art, traditional tattoos called Ta moko, and Māori buildings. I became interested in the meaning of these traditions and how Māori people have connected their culture with nature. I also learned that the same thing can have different meanings depending on the culture and history of each place.

I visited the Buried Village of Te Wairoa and learned about the eruption of Mount Tarawera. Through a VR experience, I could imagine what happened when the volcano erupted. It was interesting to learn how a natural disaster changed the lives of people living there. This experience made me think about the relationship between people, nature, and history.

Geothermal

Another thing that interested me was geothermal activity. In Rotorua, I saw hot springs, geysers, and mud pools. At Te Puia, I saw the famous Pohutu Geyser, and at Kuirau Park, I enjoyed a foot bath. Because I live in Beppu, Japan, I naturally compared Rotorua with Beppu. Both places have many hot springs because of volcanic activity, but the way people use and enjoy them is different. I thought this difference was interesting because the natural environment, history, and culture of each place are connected to the way people live.

My host family

My host family was one of the most important parts of my study abroad experience. At first, I sometimes had trouble communicating with them because my English was not good enough. However, they always listened to me carefully and tried to understand what I wanted to say. They were very kind and always made me feel comfortable.

We spent time together in our everyday life, such as eating meals, doing puzzles, playing games, and talking at home. I especially loved listening to stories about their past trips. Even simple conversations and small moments became special memories for me. At first, I was nervous about speaking English, but little by little, I became more comfortable talking with them. I was very happy that I could feel like a member of their family during my stay.

They are not just my host parents. They are two people I really respect and look up to. They are like my role models because they were always kind, warm, and caring. I want to become

a person like them someday. They became very important people in my life, and I will always remember the time I spent with them.

I really want to see them again someday. I don't know when I can visit New Zealand again, but I definitely want to meet them again and tell them how thankful I am. I hope that our relationship will continue even though we live in different countries. I am very grateful that I met them, and they will always be special and important people to me.

Personal Growth

During my stay, I also changed the way I thought about using English. Before the study abroad, I was sometimes afraid of making mistakes. However, I decided to speak English even when I was not sure if my English was correct. I learned that trying to communicate is more important than speaking perfect English. I also saw many students who were not afraid to share their ideas, and this encouraged me to try new things.

This three-week study abroad experience changed my way of thinking and made my world wider. I became more interested in different cultures and international society. I also learned the importance of trying to understand people who have different backgrounds from me. In the future, I want to use what I learned in New Zealand and continue learning about different cultures. I am very thankful to my host family, teachers, friends, Yumiko, and my family for supporting me during this special experience

別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府鶴見丘高等学校 2年 小川春樹

初めに

私は今回別府市の姉妹都市であるニュージーランド ロトルアに 3 週間留学させていただきました。この 3 週間は驚くほど一瞬でしたがたくさんの経験をさせていただきました。

このプログラムを企画、運営してくださった市役所の皆様、現地を案内してくださったユミコさん、明るく送り届けてくれた家族、そして 3 週間私を家族の一員として迎え入れてくださったホストファミリーの皆様をはじめとした今回の留学に携わっていただいたすべての皆様にお礼申し上げます。



なぜロトルアなのか

まず初めになぜ私がロトルアに行こうと思ったのかをお話させてください。

日本一の湧出量、多種多様な泉質、共同浴場の文化、温泉地獄蒸し料理、など数々の強みを持つ別府温泉。その一方、私が感じる課題としては温泉施設にあまり若者が行っていない事や、施設の老朽化などが挙げられます。このままいくと私が大人になった頃には共同浴場の多くが無くなってしまったり、共同浴場の文化そのものが無くなってしまいう気がしました。きっかけは、私の初めて入った温泉でもありとてもお気に入りだった野口中央温泉や中学生の時に友達とよく行っていたかっぱの湯などどちらにもとても思い出がある温泉が今ではどちらも失くなってしまいました。理由はどちらも利用者の減少、経営不振、施設の維持が困難になったからだと知ったことにあります。

自然の恵みである温泉に対して感謝しながら、近所の人や旅人と一緒に温泉に入るといった文化が無くなれば、どれだけ温泉が薄き出ていても、もう別府ではなくなってしまう気がするのです。別府の雨水が温泉として生まれ変わるまで50年。今を生きている私たちがこの大切な文化を守らなければ、今当たり前にある湯けむりを50年後に残すことはできません。

なのでかつて湯量減少などの問題を乗り越えたロトルアに行きどのようにして施設や文化を維持しているのかを自分の目で見えて確かめたいと思ったので私は今回3つのことを調べることを目標としてロトルアに行かせていただきました。

1. 若者の温泉への感覚の違い…別府の若者にとって温泉は少し古い存在になってしまっていると思うので現地の若者が温泉に対してどのような感覚を持っているのかを調べたい。
2. 幸福感の比較…私たちがいつも温泉に入った時に感じる「幸せ」という感覚、この感覚がロトルアと別府とで同じなのかどうなのかを調べたい。
3. マオリ文化と鶴見岳信仰の比較…マオリ文化について調べていくうちにマオリ文化には鶴見岳信仰同様自然を崇拝しているということが分かりました。どちらも同様に活火山の活動による温泉が有名であるためこれら2つの共通点、相違点を調べたい。



現地で分かったこと

1. 若者の温泉への感覚の違いについて

ロトルアに行くまでは多くの人が毎日のように入っていて、別府の共同浴場のようにたくさんの温泉があるものだと思っていましたがかなり想像とは違いました。まず設備面。別府は湯船が1つあるだけの温泉が大半ですが、ロトルアの一般的に行ける場所だとプールになっていたり、たくさんの種類の湯船がありとても広々としていました。

価格面でも大きく違いました。僕が行ったポリネシアスパという温泉施設を例に挙げると料金はNZ\$55~（約 5500 円）とかなり高価でした。現地の高校生は放課後はバイトや家に帰ってゆっくりする人が多いようでした。バイトの時給が2000円を超えるニュージーランドでもNZ\$55だとなかなか学校終わりに行く人は少ない傾向です。実際私が行った時も基本的には観光客または中高年の方々がほとんどでした。

別府の共同温泉のような小さい温泉施設は一部のマオリの部族内だけで管理、運営しているので一般の人の利用は出来ませんでした。別府の一般的な温泉と最も違うことは水着を着用して利用する点です。以上のことから若者の温泉への感覚は「レジャー」であり非日常のアクティビティになっているということが分かりました。ここから分かるのは、ロトルアの温泉が高価格で設備が整った「非日常のレジャー」であるのに対し、別府の強みは低価格で通える「日常の生活インフラ」という大きな構造の違いです。だからこそ別府では、施設をただ華やかにするのではなく、若者の意識や体験のハードルを下げるのが重要だと感じました。



2. 幸福感の違い

別府に住んでいると、温泉の幸福感は日常の延長線上に存在していて、共同温泉を通じた交流の場から生まれるものだと思います。

一方、ロトルアの人々にとっての幸福感は2パターンあると思います。1つはマオリ文化的な考え方からくるものです。すなわち、温泉は神や祖先からの贈り物（Taonga）であり単に体を温めることにとどまらず精神（Taha wairua）、心（Taha Hinengaro）を整えるものとして捉える幸福感です。

もう一つは日常のストレスから離れてオープンな空間で会話を楽しみながらリラックスできる場所がもたらす幸福感です。

ロトルアでこの精神的な幸福感が共有されているのは、テ・プイアのような施設や、学校での教育を通じて、マオリの概念が現代の分かりやすい言葉や体験として可視化されているからだと感じました。別府でも温泉の幸福感は存在しますが、おんせんが心地よい！という感覚のまま言葉にされていないため、ロトルアのように体験と言葉で若者に伝えていく必要があります。

3. マオリ文化と鶴見岳信仰の比較

別府、ロトルアのどちらも火山活動が盛んであり温泉活動の恵みとリスクを背負ってきたため自然、温泉を神からの贈り物として敬ってきました。

今回の滞在中マオリの文化が学べる「テ・プイア（Te Puia）」などを訪問して感じたことは、出会ったすべてのマオリの人々は皆自らの文化や歴史に強い誇りを持っていることです。テ・プイアのツアーでもただ単に地熱の仕組みを説明するだけでなく「マオリの人々が地熱にどのように関わり、どんな歴史や信仰と共に生きてきたか」という人間と自然のストーリーまで含めて解説されていたのが印象的でした。

一方、両者の決定的な違いは「その信仰や歴史が、現代の若者の生活にどう結びついているか」という点です。別府においてもかつてから鶴見岳を活火山、温泉の神として敬って、その噴火の恐れと地熱の恵みを共に受け入れて来た歴史があります。

山上や麓に神様を祀る別府の鶴見岳信仰は、本質的にマオリの文化と近いものを感じざるを得ません。しかしロトルアではこれらの信仰を様々な形に昇華させて人々の生活に密接に関わり若者にとっての地域の誇りになっていることに対して、鶴見岳信仰に関しては日々の生活とは隔絶されて普通に生活していく上で温泉の歴史的背景そのものを知る機会は無に等しい状態になっていると思います。

そのため私たちにとって必要なことは、若者がただ単に温泉に浸かるだけではなく、これら温泉の背景にある「鶴見岳の恵みや歴史」について知ってもらい別府に対して誇りを持ってもらうことです。

そのための具体案として以下を提案します。

現在別府市の中学校で行われている「別府学」は別府について知るために素晴らしい取り組みだと思います。ですが座学中心になっているためどうしても「単なる知識学習」になってしまっていると思います。「鶴見岳の恵みと歴史」などを知ってもらうためには、別府の温泉を肌で感じることでできるカリキュラムへ進化させる必要があります。別府に住んでいて地元で面白い場所はたくさんあるのに、身近すぎるが故に行くことはあまりないと感じます。身近すぎて個人ではわざわざ行かない場所に学校全体で公の教育として全員が体験する機会を作ることには大きな価値があると思います。家庭環境や興味の有無に関わらず、別府で育ったすべての子供達が地元の歴史や魅力について触れられる基盤になります。例えば、別府学のカリキュラムに地獄蒸し体験を取り入れる際、単に食材を蒸して食べるだけでなく、「この湯けむりや地熱は、鶴見岳に降った雨が50年かけて生まれた恵みである」という歴史的ストーリーを現地で体感する仕組みをつくりたい。これにより、地元の魅力を『美味しい・楽しい』という実感を伴って深く理解できます。

中学生の時期に当事者意識を育むことこそが、彼らが大人になった時に温泉文化を支える力となり「50年後の別府の湯けむりを残す」ための確実な第一歩になると考えます。



おわりに

ロトルアでの 3 週間は、ただの語学留学に留まらず、別府とロトルアという 2 つの温泉都市の未来を深く考える極めて貴重な機会となりました。日本を離れたからこそ気づけた別府の課題や可能性を、今後は地域の活動や学校生活の中で周囲に共有し、少しでも地元へ還元していきたいと考えています。このような素晴らしい挑戦の機会を与えてくださった別府市関係者の皆様、そして現地で家族のように支えてくれたホストファミリーに、深く感謝の意を表して本報告書の結びといたします。



Three Short, Unforgettable Weeks

On the first day of my trip, when I arrived at my host family's house, I was so nervous and so tired after the long flight.

My host mother said to me "You've had a long day. Go take a shower and get right to bed" and she prepared a nice room and bed for me. So, all my anxieties faded away, and I was able to get a good night's sleep.

When I woke up, all my fears were gone, and I couldn't wait for the days ahead.

That was how my journey studying abroad truly began. I enjoyed many things in New Zealand. First, I went to a language school called Rotorua English Language Academy "RELA", where I met people from many different countries. Such as French Polynesia, Saudi Arabia and Taiwan. My English skills were not good, but I was able to make lots of friends. Everyone was kind and friendly. At this school, we enjoyed studying English and taking part in some activities. This picture shows one of the activities at the Red Wood. There are so many big Cedars. We were able to cross the bridge between the trees.

We also went to a spa called Polynesian spa. Rotorua is famous for hot springs.

We were able to enjoy beautiful lake views while soaking in the spa.

Through this study abroad program, I realized that foreign countries are actually so much closer than I thought.

I learned about the importance of communicating with people from foreign countries.

From now on, I would like to visit more countries and experience the world through my eyes.



別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府鶴見丘高等学校 1年 手島 梨紗

まず、今回このようなサマースクールプログラムに参加させていただきありがとうございました。このプログラムで学んだことや経験、出会った人々の温かさはこの先忘れることはないでしょう。今回私の留学に関わってくれた全ての人に感謝申し上げます。

《学校生活》

私はこの留学中のほとんどを Rotorua English Language Academy(RELA)で過ごしました。通常の学校とは違い、生徒を尊重した自由な授業で生徒の発言の機会も多く成長しやすい学校でした。初めは話すスピードについていけなかったり自分が思ったように英語が出てこなくてうまく話せなかったりしたけど、先生方やサポートスタッフの皆様、そしてたくさんの友達が優しく頷きながら話を聞いてくれたり、わからない単語を言い換えたりしてくれたおかげで緊張も和らぎ、少しずつ話せるようになりました。



RELA にはサウジアラビアやフランス領ポリネシア、台湾、チリなど様々な国籍の仲間がおり、言語も文化も年齢もバラバラな人が英語を通して繋がれること、英語がなければ交わることのなかった人々と出会えることにとても感動しました。

初めは『完璧に話さなくちゃ』とか『文法これであってるかな?』とか一つひとつの発言に気を遣って完璧に話そうとしていました。そのせいでなかなか発言ができず、自分が思っていることも伝えられませんでした。しかし、RELA での友達が私に『完璧じゃなくていいし、分からなかったら自分が知ってる単語だけでもいいから話してみなよ』と言ってくれたおかげで自分が伝えたいことが相手に伝われば別に完璧じゃなくていいんだということに気づくことができました。



RELAでのアクティビティはとても楽しく、学びがあり、ニュージーランドについてよく知れる素晴らしい物でした。アクティビティではたくさんの人と話す機会があり、同じクラスの人はもちろん違うクラスの喋ったことのない人とも話す機会がありたくさんの人と話し、絆を深めることができました。



《ホームステイ》

ニュージーランドに行く前からメッセージアプリでやりとりをし、ワクワクしながらホームステイ先へ向かいました。

ついてみると優しい夫婦と可愛い猫ちゃんが暖かく迎え入れてくれました。夜だったこともあり、夕食をとりながら私自身についてのことや日本のこと、留学で何を学びたいかなどたくさん質問をされ、私もホストファミリーに質問をしたりしました。二人ともとても陽気な方で冗談を言って笑いあっている姿がとても印象的でした。夕食後、日本のお土産を渡すととても喜んでくれました。

ホストファミリーは毎日送り迎えをしてくれて、私が行きたいところがあればどこへでも連れて行ってくれました。週末は午前中は家族で山登りをして午後はショッピングに行ったり映画をみんなで見たりました。

そんなホストファミリーに何か恩返しができたらと苦手な料理にも挑戦しました。初めは上手くいなくて指を包丁で切っちゃったり材料を違うところに入れちゃったりしてしまって、手伝いどころかホストファミリーの仕事を増やしてしまったけど、1人の時間の時に包丁の持ち方や切り方今日出た料理の名前を調べてレシピを見てみたりしてちょっとずつ自分でやることを増やしていきました。

週末には娘さんや息子さんたちが帰ってきてたくさん話しました。特に、来月に日本に旅行に行く予定の娘さんはとても日本に興味があって、お互いの国のことやオススメの観光スポット、お土産のことを話しました。

お別れの日の前日に感謝の気持ちを込めて趣味である茶道を披露しました。ホストファミリーは以前抹茶を飲んだ経験があるらしく、そのときの感想を聞くと『苦味が強くて苦手だった』と言っていました。そのためその時は少し抹茶の粉の量が多かったのではないかと思います、いつも立てるときよりも少し抹茶の粉の量を減らしてたててみました。すると『前飲んだときと全然違う！とても美味しい！』と言ってくれ、とても気に入っていました。

最後の最後まで私を笑わせてくれ、愛情を注いでくれたホストファミリーにとっても感謝しています。



《温泉文化》

別府には多くの温泉があり、中でも私が住む鉄輪は湯けむりに溢れており、どこへ行っても硫黄の匂いがします。そんな地域で育った私だからこそ昔から温泉にとっても興味があり、同じ温泉を持つニュージーランドにもまた興味がありました。

温泉があるのだから別府と同じように湯けむりが立ち上っていて硫黄の匂いがたくさんするのだろうと思っていたけれど実際は違って、街中は本当に温泉があるのだろうかと思うくらい温泉が見当たりませんでした。

Te puiaという間欠泉が通っている施設へ向かうと、そこには別府と同じような光景が広がっており、硫黄の匂いが別府よりも強く感じられました。泥温泉や食べ物を温泉の蒸気で蒸すHangiなどがあり、マオリの血を継いだガイドさんが順に紹介してくれ、歴史のことや特徴などを教えて

くれました。

その他にもスパや温水プールなど温泉を利用した施設が多くありました。別府では温泉に入っている多くの人が高齢者であり、あまり若い方は見かけないけどニュージーランドでは年齢関係なく様々な年齢の方が入浴していました。また、観光客や留学生などのニュージーランド以外の国の人が多く入浴していて、あまり馴染みのない人でも入りやすくなっているんだなと思いました。



今回の留学は私にとって初めての海外で初めての留学だったから緊張もしたし分からないことだらけで周りの人に助けてもらうことも多かったけど、多くの人と関わったりいろいろな文化に触れることで自分の中で価値観が大きく変化し、自分にとっての新たな課題も見つかり、新たな将来の夢も見つかりました。今回の留学を経験して私の未来は 90° 変わったと思います。この経験を私の将来が明るい方へ向かうように生かして行きたいと思います。



Only you can change yourself

Teshima Risa, Turumigaoka high school

I wasn't confident before. When I tried to challenge, I thought negative things like "I will fail" or "It's probably too late now". I wanted to change myself so I tried studying abroad.

When I tried first screening and second screening, I think "I will fail the test". But I passed. First I was glad, because I can study abroad. But I was starting distress. "Studying abroad might not go well" or "I can't speak English well" such distress began to increase.

Once I started studying abroad, those worries disappeared. Of course, I could hear and speak it at all at first. But No one blamed me and everyone welcomed me warmly. I made a lot of mistakes. But that led to growth. And I realized "The more you fail, the more you grow. The fail isn't but. "From then on, I started taking action on my own and said. Talking to someone myself and asking questions about things I don't understand.

Each time I feel like "I've leveled up".

Until now, I thought that lack of self-confidence and shyness were inevitable, and that things wouldn't change unless the environment changed. But it's error. Only I can change myself.

I will continue to change myself with my own hands



別府市高校生サマースクールプログラム報告書

大分県立別府鶴見丘高校 1 年 朴一豪

この留学を通して

私は、ニュージーランドのロトルア市で3週間過ごしました。そこでの経験は私にかけがえのない思い出と成長を与えてくれました。

そこで培った経験をここに留め、サポートしてくれた方々、一緒に行った3人にも感謝の気持ちを伝えたいです。

環境の違い

私の中で衝撃だったところが2つあります。1つ目は、私がお世話になったホストファミリーの家では、靴を履いたまま中に入っても良く、スリッパなどもなかったことです。

2つ目は、動物が身近だということです。街から少し離れれば、すぐに羊や牛が放されていて、別府市や日本よりも動物がとても身近に感じました。元々動物が多いとは聞いていましたが、想像以上の多さに圧倒されてしまいました。



生活とホストファミリー

ホストファミリーの中に、同じ RELA に通うサウジアラビアからの留学生もいました。あまり上手な英語ではなかったですが、自分なりに伝えようとすると会話を楽しんでもらえて、抱えていた不安が一気に和みました。

私が話しかけるのを躊躇っているとホストマザーは、「緊張しないでいいのよ。あなたは私たちの家族なのだから。」と私を受け入れてくれたことが何より嬉しかったし、喋る自信のきっかけにもなりました。



また、休日は1日かけてロトルア市の案内や湖に連れて行ってくれました。ロトルア市にある湖はどれも大きく、水が見たことないほど澄んでいて、魚や植物が生息していました。ホストファミリーによると、生息している魚のほとんどが「トラウト」というサケ科の淡水魚だそうです。

学校生活

1日目はほんとに緊張しました。「これからここへ通うのか…」という不安と「英語がちゃんと伝わるか」の心配がありました。ですがそんなのとは大違いで、先生も他の学生もみんなフレンドリー

で話を盛り上げてくれるし、たくさん話題を振ってくれました。人と話すと会話が止まることがあった私は、これを通じて話すことの抵抗を完全になくすることができました。金曜日は学校が企画するアクティビティに参加して、仲を深めることができました。この間までちょっとぎこちなかった空気だったのに少し時間が経てばすぐに友達になれることにとても感激しました。RELAは語学学校なので、たくさんの国からの留学生がいます。それを利用して、現地の言語を学んでみたり、文化の違いを探してみたり、全く違うことをたくさん吸収できたと思います。



アクティビティでは毎週違うところへ行きます。私たちは、レッドウッド、スカイライン、ポリネシアンスパへ行かせていただきました。レッドウッドでは、背の高い杉の木がたくさん立っていてロトルア市の町中とは全く違う雰囲気でした。空中アスレチックで、揺れる橋や底が丸見えの階段などを登りました。高いところで少し怖い気持ちもありましたが、ほかのみんなが楽しそうにしているのをみるといつの間にかその怖さを忘れていました。みんなで話しながら探索をする時間がほんとに好きでした。



スカイラインとは、ロトルア市にあるケーブルカーのことで、このケーブルカーに乗って山の山頂まで登り、コースをゴーカートで運転して山を下ります。ゴーカートはスピードが出るし運転も簡単ではなかったので少しスリルがあって面白かったです。ゴーカートで降りたあとはリフトに乗って上まで上がり、また山を下る……の繰り返しでした。リフトもゴーカートも初めてだったので、ほかの人たちと競争してみたり、上級者コースへ行ってみたり、ここでは「どんなものでもいいからやってみるか」という挑戦する精神がついた気がします。あいにく雨が途中に降ったことから、少し危ない場面も多々あったけどかけがえのないものになりました。

ポリネシアンスパでは、別府市と姉妹都市を結んだきっかけの一つでもある温泉に入りました。室内ではなく、屋外だったため露天風呂？に近い感じでした。お湯はあまり熱くなくて程よい湯加減でした。どちらかというとプールのような感覚で、深いところもあれば浅いところもあるし、泳いだりする人もいました。お湯につかりながら思い出や他国のことで会話したりして、徐々に打ち解けていけたことがとても印象に残っています。



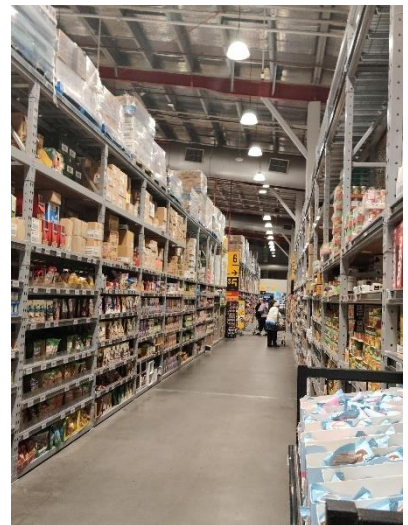
英語

最初は RELA の授業では、先生は何を言っているのか聞き取ることは至難の業でした。私のいたクラスには一人も日本人がいないので、ほかのクラスメイトに聞か、自分で力で理解するしか方法がなかったです。もちろん他の生徒も英語を勉強するために来ている、それはわかっていたのですが、想像よりも早く、会話を理解するのと話すことを同時に考えなければなりません。先生の場合は質問すればわかりやすく説明してくれて、新しい単語に現地のスラングなどもおまけで教えたりしてくれました。でもホストファミリーになると話は別です。毎晩会話をしながら映画を見たりご飯を食べたり、言ってることは雰囲気やジャスチャーでなんとなくわかるけど、言葉だけだと何も理解できないことに気づいてしまいました。ネイティブスピーカーなのですから、会話をするたびに知らない単語、新しい単語が耳に入ってきます。常に必死になって会話を追いかけていました。

たしかに苦ではありましたが、「別府にいればこんな経験は絶対できない」という思いがこみ上げてきました。ネイティブの人たちと話せるほど貴重な経験はそうたくさんないでしょう。そう思うと自分自身が奮い立って来ました。少しでも残せるものを持って帰ろうと決意した瞬間でした。数日経つてくると、耳が慣れてきたのか少しずつ言葉だけでも理解できるようになりました。100%というわけではないですが、喋ってることはわかるし、喜怒哀楽もわかるようになってきて、英語が少しずつ吸収されていく実感がありました。

スーパーに行って買い物をしてみることに私にとって英語が関わっているなかで最難関のことでした。最初は緊張して一步を踏み出せませんでした。自分のためだと思い、ある日入ってみました。店内はたくさんの人とたくさんのもので溢れかえっていて、見たことないような食べ物や珍しいものがたくさんありました。スーパーなのにちょっとした冒険みたいでした。全て英語なので見たことないものがあったら即、翻訳機で調べたり、友達やホストファミリーがいたら聞いてみたり、小さな発見が詰まっていました。

会計は無人レジがほとんどでした。ホストマザーは、「買う量が少なければ無人レジへ、大量に買うのであれば有人レジに行く」のが主流だと教えてくれました。



物価と大きさ



ニュージーランド物価はとても高く、日本では考えられないようでした。ジュースが一本約 500 円～800 円で、日本の約 6～7 倍以上の値段でした。ですがこれも一つの面白さだと思いました。その分、日本よりも容量は大きく、日本のような 500ml などほとんど見ず、ほとんどが 800ml や 1L のボトルでした。売っているほとんどのものが全てが大きく、驚きと新鮮さの連続でした。左の写真のように、牛乳は紙ではなくてプラスチックのボトルに入っていました。写真は 2L ですが、私が行ったお店の一番小さいサイズでした……。ボトルが大き

い理由が家庭にも表れていて、ほんとにたくさんの牛乳を飲みます。紅茶やミルクティーにして飲んだり、夜も牛乳を使って料理をしたりするので牛乳の消費量はとても多いんだなと感じました

自分自身の目的

この留学は、単なる言語だけのために行ったものではなく、自分たちがどうやって視野を広げてどうやって活用できるかが関わっているのだと思っています。今回の留学はそれが全て詰まったものでした。飛行機も自分たちだけで乗ったことなんてないし、ホームステイをして海外で一人になるなんて行く前は到底考えられませんでした。でも行くチャンスを掴んだからにはやってみようという挑戦心が湧いてきました。不安は確かにあったけど、考えたり後回しにするのは避け、まず動いてみることにしました。これができれば、どんなことでも乗り越えられるし、自身にもつながります。私は学校の休み時間に勇気を振り絞ってほかの人に挨拶をしました。もしそこでできてなかったら、今になってすごく後悔したはずですが、成功しても失敗してもいいので、まず動き出してみてください。結果はどうなっても行動したこと、一歩を踏み出したことにかわりはないんです。

この経験は私にとってとても貴重な財産になりました。別府市は国際色豊かな街であり、たくさんの外国人が集まってきます。そして、この留学で培った力を発揮できる場面がたくさんあるはずです。多文化を認め合い、いろいろな人が関わり合える社会を築いていきたいです。

My experiences in New Zealand

Leo park Beppu Tsurumigaoka High School

At the first, I am really appreciated that I could have this unforgettable opportunity to go to Rotorua as a member of student group sent by city hall.

Before I go, I was so worried about the studies and life in new environment because this is my first time to go to such a long way to another country. Also, I was worried about my English, "Can they understand me?"

Since I arrived in New Zealand and started studying at RELA there were many students from different countries, so I could know and learn many different cultures and communicated with them in English.

During the class time, teacher speaks very fast, so that I couldn't understand what she said, and also because I am the only student from Japan in my class, so I had to ask the teacher or other classmates in English even I was so shy to speak in English, then a few days, my listening skill had getting better, I could get more understand what teacher said, even it is not perfectly but I was so happy.

My host family were very kind to me.

They speak very local English and fast so I asked them, "Could you please speak a little slowly?", then they speak slowly to me. Therefore, I could talk with them and enjoyed talkings. Many times, if I said wrong sentence, they would correct me with a correct sentence. On the weekend and holidays, they often took me to different places in Rotorua and famous tourism city Taupo.

Every Friday school will organize students to join the outside activities, such as forest track Redwoods, Skyline and hot spring Spa. These facilities were very relaxing and fresher to me.

The most impressive activity was Skyline, the scenery while riding the gondola up to the top of the mountain was amazing, and that was thrilling and fast when I drove go-cart raced with my friends ridding down from the mountain.

These experiences gave me wonderful memories and growth.

I realized that it's important to take challenges, for example, if you want to make friends, talk with them and have to always be positive.

Through these experiences, I want to build a society that all people can live happily.